

地域再発見

一宮町 東原地区

ウォーキングマップ

東原ひがしばら



①甲斐奈神社 (かいなじんじゃ)

甲斐国の総社。祭神は国常立尊(クニトコタチノカミ)・高皇靈尊(タカムスビノミコト)・伊耶那岐神(イザナギ)・伊耶那美神(イザナミ)の四神。拝殿の天井板には和歌や短歌が書かれている。神殿奥には武田ゆかりの「二枝(にし)の竹」がある。



②甲斐奈神社の大杉 (おおすぎ)

御神木であり、樹齢 2000~1500 年あったと言われ、当時は県下一だった。残念ながら今は枯死していて、その跡に次世代の杉が植えられている。



③道祖神 (どうそじん)

地区内に 4 つある道祖神の一つで、直売所敷地の角にある。一宮町内でも年代の古いもの。コース途中にある他の道祖神も見つけてみてください。



④歩道橋 上からのパノラマ

東南の山々のすそに、金川・京戸川扇状地が見える。京戸川扇状地は美しい型をした典型的な扇状地形として教科書に取り上げられている。西には目を転じると、南アルプスの麗容が遠く眺められる。



⑤小玉寺 (しょうぎよくじ)

臨済宗(恵林寺の末寺)。境内は国学址として史蹟指定を受ける。奈良・平安時代、軍司の師弟や地方豪族が官僚となるために学んだ「国学」だった。学生は 40 名。寺の棟札(江戸時代のもの)は県下でも長文で有名です。本堂のまわりには、梅の木が多く、早春には楽しみである。



⑥百番供養 (ひゃくばんくよう)

この供養塔に参拝すると一回で百の寺をお参りしたのと同様と言われている。遠出のできない庶民(女・老人)の信仰の対象だったか。道標にもなっていて、(右)一ノ宮、(左)八幡道と読める。



⑦四の橋 (しのはし)

金川上流より四番目の橋ということから名付けられたと言われている。古くは「志の橋」と記されたこともあった。ここも景観ポイントの一つで、橋の上から眺めると、御坂山塊から流れる金川の急勾配や堤防など他の地点では見られない景観が見られる。



⑧御幸街道 (みゆきみち)

甲斐の公祭である「大神幸祭(通称:おみゆきさん)」の神輿が通った道だったという。(現在はトラックに乗せてしまうために、ここは通らない。)桃の花いっぱい綺麗な場所。神輿の行列を想像しながら歩いてください。



⑨長徳寺 (ちょうとくじ)

臨済宗(長昌寺の末寺)。応永年間の開創で、本尊は地藏菩薩。入り口にはかわいらしい六地藏、馬頭観世音などの石仏がある。また、すぐ近くに道祖神も祀られている。



⑩国分尼寺跡 (こくぶんにじ)

正式名は「法華滅罪寺(通称:花寺)」。甲斐国分寺跡地から約 500m 離れて位置している。敷地の範囲は約 180m 四方。金堂と講堂跡の礎石が残っている。国指定史跡となっている。時間が許せば国分寺にも足をのばして!